

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・**最終**)

蒲刈中学校区 校番 23 学校名 蒲刈中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策 (こう改善します)
***	<p>学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせ、未知の状況にも対応できる児童生徒の育成</p>	<p>知識・技能の確実な定着</p> <p>★身に付けた学習内容(知識・技能)を他の学習や生活の場面で活用できる生徒の育成</p> <p>自己表現できる力の育成</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>★知識及び技能を活用して、課題解決や未来を拓く行動ができる生徒の育成</p>	<p>①今年度から学校司書が配置され、図書の出し出しや図書館整備に関わっていただいた結果、後期は4%改善した。朝読書も継続して取り組んでいるが、その時間だけでは読み切れない作品がある。</p> <p>②教えて考えさせる授業のもと、相手に説明する場を多く設定できている。専門用語や資料(図や表等)を使い、根拠を挙げながら発表することに課題が見られる。</p> <p>③家庭と連携をとりながら、宿題をやりきらせる指導を行った。全員が提出し切るところまでは至っていないが、やや改善した。予習・復習をする生徒も上半期よりも増えた。</p> <p>④多くの生徒が、授業や部活動で週5日以上体を動かしている。講師を招いてのスポーツリズムトレーニングやかまりんピック等では楽しみながら体を動かすことができた。</p> <p>⑤体育の授業前に、補助運動(サーキットトレーニング)を取り入れ、部活動では準備運動を工夫した。体力テストでは県平均を下回っているが、前期より改善した。</p> <p>⑥授業においては、教科の用語を使ったり、根拠を述べたりする等、発表の仕方を指導した。また、自己表現や新聞スピーチ等、授業以外でも、自分の考えを表現する場を多く設けた。</p> <p>⑦学び合いの中で、自分の意見や考えを説明するために、理由や根拠を述べたり正しい言葉で説明したりすることができておらず、文章も書けていない。</p> <p>⑧週末のワークシート通信の課題や帰りの会での新聞スピーチ(隔週)を通して、社会の出来事に関心を持つことはできている。しかし、自分のこと結びつけて考える点はまだ不十分である。</p> <p>⑨教職員アンケートでは上半期を下回る結果となったが、高い水準を維持している。低下した理由として活用するソフトがロイノートのみならず、ジャムボード、キュビナなどが導入される中、使いこなせていないと感じる教職員がいると思われる。</p>	<p>①学校司書と連携し、生徒の興味・関心を喚起するよう取り組んでいく。朝読書にふさわしい、10分で読み切れるような短編の作品を積極的に配架していく。</p> <p>②生徒に発表させる際、理由や根拠を問う切り返しを意識して授業を行う。また、教科の専門用語をきちんと使って説明させる。</p> <p>③引き続き、家庭と連携をとりながら、宿題をやりきらせる指導を行う。また、予習・復習の意義を説くとともに、予習・復習が活きることを生徒に実感させる授業を展開していく。</p> <p>④運動部に所属していない生徒や休みがちな生徒の運動不足の対策として、自宅で体動かすことができるストレッチなどの呼びかけを行っていく。</p> <p>⑤引き続き、サーキットトレーニングを体育の授業時に実施する。定期的に課題項目の体力テストを実施し、経過を視覚化する等、生徒の意欲を高める工夫をする。</p> <p>⑥発表の場を多く設け、成功体験を積ませることで、更に自信をつけさせていく。また、声の大きさを視線に課題のある生徒が多いので、今後も粘り強く指導していく。</p> <p>⑦説明を求めるときに、理由や根拠を問う切り返しを意識して発問する。教科の専門用語が教師がきちんと指導し、生徒にも専門用語を使って説明させる。</p> <p>⑧社会の出来事が自分の事どのように結びついているかを深く考えさせるために、新聞スピーチでは、自分との関わりを含めて意見を述べるように指導していく。</p> <p>⑨タブレット端末の使用に不安を持っている教職員に対しては、気軽に相談に乗っていくことや、全体でICT研修を行うことにより、全体のスキルアップを目指していく。</p>
**	<p>郷土を愛し、協働して貢献し、学んだことを人生や社会に生かそうとする児童生徒の育成</p>	<p>自己肯定感の育成</p> <p>自己の生き方を考える力の育成</p> <p>★夢の実現に向けて自己の生き方を考え、よりよく生きるための行動ができる生徒の育成</p> <p>協働的に関わる力の育成</p> <p>★郷土や仲間を愛し、相手の気持ちを尊重して協働し、積極的に貢献できる生徒の育成</p>	<p>⑩小中合同運動会、小中合同学習発表会では、保護者・地域の方々、小学生からメッセージをもらい、自己肯定感が高まった。小中合同学習発表会では、展示物、太鼓と神楽を披露し合い、小中でお互いに賞賛を送り、拍手をもらうことで自己肯定感が向上した。</p> <p>⑪教師の指導により、各学年で自己表現の場は設けられていた。表現する内容や表現の仕方については、今後も継続して指導していく必要がある。</p> <p>⑫ゲストティーチャーを招いたり、課外活動をしたりする機会が多かったが、「未来を拓く100のあいシート」を実施する機会は少なく、自分の生き方と関連させることができていなかった。</p> <p>⑬計画的に実施していたが、特に給食時間における指導において郷土料理や地場産物等の内容が多く、食と健康について考えさせる内容が昨年度より少なかった。</p> <p>⑭コロナ禍で取組等に制限はあったが、地域について調査したり、職場体験活動に取り組んだりすることで、地域についての知識を深めることができた。</p> <p>⑮異年齢交流(太鼓練習)では、中2・3がリーダーとなり、中1に教えることで自分の役割を果たし、協働することの大切さを実感することができた。また、サブ体験などの異年齢交流の活動も意欲的に参加できた。</p> <p>⑯小中合同遠足や運動会、学習発表会等の行事において、異学年との交流の場である「よしやこい」や「太鼓」におけるグループでの教え合いを通して、協働して地域文化継承の役割を果たしたことで、生徒は達成感を感じることができた。</p> <p>⑰小中合同挨拶運動、生徒会主催の校内挨拶運動を行い、挨拶についての意識を高めることができた。また、全校道徳で挨拶をテーマに取り上げ、挨拶の重要性について認識できた。しかし、日々の挨拶はまだ主体性が低く、声も小さい現状がある。</p>	<p>⑩学校行事では生徒にできるだけ役割を決め、達成感をもたせ、自己肯定感を高めていく。今後も、その成果を保護者・地域の方、小学生に披露する場を積極的に設け、自己肯定感の向上につなげる。</p> <p>⑪自己表現の内容や表現の仕方について、タブレットの録画機能などを活用し、生徒自身が確認できるようにする。より相手を意識した表現ができるように指導する。</p> <p>⑫ゲストティーチャーの来校や課外活動の際には、「未来を拓く100のあいシート」を担当者が印刷するなど、組織としての改善が必要である。生徒がさまざまな生き方から自分の生き方を発見できるよう工夫する。</p> <p>⑬年間指導計画をしっかりと立て、食に関する指導や給食時間における指導、食育通信、掲示板等の活用を効率よく組み合わせ、年間を通して計画的に指導していく。</p> <p>⑭調べてまとめたことを「発信する場」が、学習をより充実させ、生徒のモチベーション向上につながる。地域との連携を大切に、清掃ボランティアなど、より一層地域への貢献が実感できる学習や活動に取り組んでいく。</p> <p>⑮少人数の特徴を活かして、様々な体験活動を全学年での異年齢交流として積極的に行っていく。中3はリーダーとしての役割を持たせ、協働的に関わる意欲や達成感の向上にもつなげる。</p> <p>⑯コロナ禍で今後も活動の制限があるかもしれないが、仲間と協働することで自分たちの役割を果たし、地域へ貢献することを通して、達成感が得られる体験を充実させていく。</p> <p>⑰生徒会を中心に、挨拶への自主性を持たせると共に、生徒指導部としての重点項目として挨拶を挙げ、朝の会・帰りの会・授業内でも徹底して指導を行い、学校全体で気持ちの良い挨拶ができるよう意識を高めていく。</p>
*	<p>教職員の意欲と能力を発揮できる教育環境づくり</p>	<p>生徒と向き合う時間の確保</p> <p>★スクラップアンドビルドによる教育活動の質的向上</p> <p>長時間勤務の軽減</p> <p>★一人一人の個性や強みを活かしイノベーションが起きる組織づくり</p>	<p>⑱生徒と向き合う時間が確保されていると感じると肯定的に回答(6段階の上位3段階)する教員は90%と高いが、上位2段階となると50%となる。自信をもって確保されていると回答(上位2段階)する教員を80%にすることが課題である。</p> <p>⑲毎月の全教職員の時間外在校等時間の平均は、4月以外は45時間以下となった。しかし、教職員の個性や強みを生かしたり、達成感や充実感を向上させたりすることが今後の課題である。</p>	<p>⑲隔週で行っている企画委員会や3学期に行っているプロジェクト会議において、特に改善したいことやスクラップしたいことについて協議しながら積極的にスクラップしていく。</p> <p>⑲働き方改革に関するアンケートから集約した個人の意見や、企画委員会やプロジェクト会議などによってボトムアップされたアイデアを、できる限り早急を実現させる。</p>